

天埋カセテリア形 据付工事説明書

JPG012D006B/A

三菱重工

本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載してあります。
電気配線(室内)は、電気配線工事説明書をご覧ください。リモコンの取付方法は、リモコン付属の説明書をご覧ください。ワイヤレスキットの取付方法は、ワイヤレスキット付属の説明書をご覧ください。
また、故障診断時は、室内ユニットの結線図もご覧ください。
●本機はダクト機種です。直吹きは使用しないでください。
●専用のパネル(エアフィルタ組込)又はフィルタキット(天井リターン設置)を組み合わせて使用してください。

安全上のご注意

- 据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
ここに示した注意事項は、「[注意]」「[重要]」に区分していますが、誤った据付けをした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものも特に「[重要]」の欄にまとめて記載しています。しかし、「[注意]」の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- ここで使われる「図記号」の意味は右のとおりです。「○」絶対に行わない「①②」必ず指示に従い行う
- 据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書に「安全上のご注意」や正しい使用方法、お手入れの仕方(エアフィルタの清掃、運転操作の仕方、温度調節の方法など)をお客様に説明してください。
この据付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などをお渡しいただくよう依頼してください。

△警告

- 据付けは、お買い上げの販売店又は専門業者に依頼する。
ご自分で据付工事をされれば不備があると、水漏れや感電、火災、ユニット落下によるケガの原因になります。
- 据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。
ここに不備があると破損・ケガの原因となり、また水漏れや感電、火災などの原因になります。
- 小屋組に据け付ける場合は、冷媒が漏れでも、限界温度を超えない対策をする。(JISA GL-13)
限界温度を超えないようにするには、配管径を細くする、冷媒が漏れすぎと断水事故の原因になります。
- 設置工事には必ず指定の部品を使用する。
当社指定の部品を使用しないと、ユニット落下、水漏れ、火災、感電などの原因になります。
- 作業中に冷媒が漏れた場合は換気をする。
冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 据付けは、重量に十分耐える所に確実に行う。
強度が不足している場合は、ユニットの落下などにより、ケガの原因になります。
- 台風などの強風、地震に備え、所定の据付工事を行う。
据付工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になります。
- エアコンの設置や移動の場合、冷凍サイクル内に指定冷凍以外の空気などを入れない。
空気などが入ると冷凍サイクル内に異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。
- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及び据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。
- 配線は、所定のケーブルを使用し確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。
- 室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取り付け。
カバーの取付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災、感電などの原因になります。
- 据付工事完了後、冷媒ガスを漏れがないことを確認する。
冷媒が室内に漏れ、フッ化水素、ストローク、コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 配管、フレアナット、工具はR32用またはR410A用のものを使用する。
既存(R22)の部品を使用すると、機器の故障と同時に冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因になります。
- フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締める。
フレアナットの締め付け過剰があると、配管経路フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になります。
- フレナ配管はイオウガス等有毒ガスの発生する排水溝に直接入れない。
室内に有毒ガスが侵入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。また、室内機を腐食させ、故障や冷媒漏れの原因になります。
- 据付作業では圧縮機を運転する前に圧縮機を停止する。
圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管をはずすと空気などを吸引し、冷凍サイクル内に異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。
- オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取付けは専門業者に依頼する。
ご自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災などの原因になります。
- 改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。
修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
- エアコンを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。
取付けに不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
- 室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ずOFFする。
点検・修理にあたって、電源ブレーカがONのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。
- パネルやガードを正しく状態に運転しない。
運転時の回転、高圧、高電圧に接触すると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。
- 冷媒管を切った後に配管工事を行う。
感電、故障や動作不良の原因になります。

1

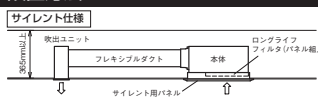
△注意

- アース(接地)を確実に行う。
アース線は、ガス配、水道配、排水配、電話のアース線に接続しないでください。アース(接地)が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電や火災の原因になることがあります。
- 漏電遮断器は必ず取り付け。
漏電遮断器が取り付けられていないと感電や火災の原因になることがあります。
- 正しい容量の全自動遮断するブレーカ(漏電遮断器・分岐開閉器(開閉器+分岐ブレーカ)・配線遮断器)を使用する。
不適切なブレーカを使用すると感電や火災の原因になることがあります。
- 正しい容量のヒューズは使用しない。
針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。
- 可燃性ガスの漏れる恐れのある場所への設置は行わない。
ガスが漏れやすいとの原因になることがあります。
- 可燃性ガス(亜硝酸ガスなど)、可燃性ガス(シンナー、ガソリンなど)の発生、滞留の可能性のある所、排気引火物を取扱う所の設置、使用は行わない。
無火の腐食、プラスチック製品の破損などの原因になることがあります。また可燃性ガスは発火の原因になることがあります。
- 工事、点検、メンテナンス作業のための規定のスペースを確保してください。
スペースが不足する場合は、設置場所からの脱落によるケガの原因になることがあります。
- 洗濯機など、水の掛かる所では使用しない。
室内ユニットは水の浸入に対する保護はしていません。水が掛かると感電、火災などの原因になることがあります。
- 食品・動物飼育・精密機器・美術品の保存など特殊用途には使用しない。
食品の品質低下などの原因になることがあります。
- 病院、通院施設などでの電磁波を発生する機器、電磁波の発生する機器の近くでは据付け、使用しない。
インバータ機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器の影響によるエアコンの誤動作や故障の原因になり、エアコン側から医療機器あるいは通信機器へ影響を与え人体の医療行為を妨げたり、映像放送の乱れや雑音など弊害の原因になることがあります。
- 直射日光の当たる所に設置しない。
直射日光の照射により、故障の原因になることがあります。
- 次の場所への据付けは避ける。
・可燃性ガスの漏れる恐れがある所
・燃炎の飛ぶ場所
・腐食性ガス・塩化ガス・酸・アルカリ・アンモニアなど、カーボン繊維や金属粉、バウダーなどが浮遊する所
・機器に影響する物の発生する所
・油の飛沫や蒸気が多い所(調理場、機械工場など)
・化粧品、特殊なスプレーを頻繁に使用する所
・高圧電圧を発生する機器を使用する所
・機器が1000mm以上の性能を著しく低下させたり、部品が高電圧、破壊したりする原因になることがあります。
- 次の場所への室内機の据付けは避ける。(機器により異なる制限があるため、その指示に従ってください)。
・吸込口、吸出口に風の被害がある所
・強風が十分に風速が速い所
・ワイヤレス機の場合、受光部に直接太陽光が強い光が当たる所
・高圧電圧に近接する機器のある所(TVおよびラジオ等の近傍)
・ドレンの排水がとれない所
性能や機能に影響をおよぼす原因になります。
- エアコンの下部に漏れて困るものはない。
湿度が80%以上の時や、ドレン排水が詰まった場合に、室内ユニットから露が滴下し被害が生じることがあります。
- 長期使用で腐んだままの据付台を使用しない。
腐んだ状態で設置するとユニットの落下につながり、ケガなどの原因になることがあります。
- ユニット近くで溶接作業を行う場合は十分注意し、ユニット内のスリット(ワタ)の設置を防止する。
溶接作業により発生するスパッタがユニットに当たった場合、ドレンパンなどに損傷(ヒートマーク)をあたえ、水漏れなどの原因になることがあります。ユニット内へのスパッタの侵入を防ぐため樹脂カバーを必ずしていただく。
- ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管する。
不適切な場合、室内に浸水し、腐食などを生ずる原因になることがあります。
- GHP(ガスヒートポンプ)の場合、室内ユニットの排水ドレンと室内ユニットの排水ドレン管は共用しない。
室内に有毒ガスが侵入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。
- 冷媒配管工事終了後は圧縮機による気密試験を行い、漏れのないことを確認してください。
ガス、臭い漏れは圧縮機が漏れし、保圧試験を繰り返すと火災事故の原因になることがあります。
- フレナ配管は700mm(1/100)以上とし、途中に屈曲やトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対にしない。
試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。
- 不完全な断熱材は取り除き、断熱材と裏面が密着して、裏側に発生し、床・天井・床・天井・床・天井など、大切なものを腐らす原因になることがあります。
- 室内ユニットは、小動物のすまかひになるような場所に設置しない。
小動物が入ると、内部の電気部品に触れると、故障や発火・発火の原因になることがあります。
また、お客様に周辺にけいするおそれがあります。
- 製品の運搬は十分注意して行う。
20kg以上の製品は原則として2人以上で行ってください。PPバンドなど所定の位置以外をもって製品を動かさないで下さい。
素手でバンドなどに触れるとケガをする場合がありますので保護具をご使用ください。
- 梱包材の処理は確実にする。
梱包材にクニなどの金属あるいは、木片などを使用していますので放置状態にしますとケガをすることがあります。
- フィタを剥がすときは手袋を必ず着用し、剥がしたフィタを、ゴミ箱などに捨てる。故障の原因になることがあります。
- 据付した手でスイッチを操作しない。
感電の原因になることがあります。
- 運転中の冷媒配管を素手で触れない。
運転中の冷媒配管は低温・高圧の状態で、素手で触れると凍傷や、やけどになることがあります。
- 冷媒管を水漏れしない。
感電の原因になることがあります。
- 運転停止後、すぐに電源を切らない。
必ず十分に冷えてから電源を切ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。
- 電源ブレーカによるエアコンの運転や停止をしない。
火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。

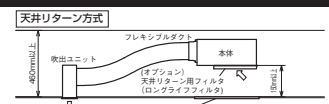
2

設置方法

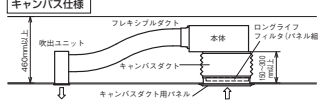
サイレント仕様



天井リターン方式



キャンバス仕様



本体の大きさ、設置方法とオプションを確認してください。
吹出ダクト他のオプションを含めカタログにて確認してください。

シリーズ	組合せオプション	P22	P28	P36	P40	P45	P50	P56	P63	P71	P80	P90	P112	P140	P160
シリーズ	冷媒配管	標準	標準	標準	標準	標準	標準	標準	標準	標準	標準	標準	標準	標準	標準
オプション	冷媒配管	標準	標準	標準	標準	標準	標準	標準	標準	標準	標準	標準	標準	標準	標準
キャンバスダクト	キャンバス	R-PNS-2AW	R-PNS-2AW	R-PNS-2AW	R-PNS-2AW	R-PNS-2AW	R-PNS-2AW	R-PNS-2AW	R-PNS-2AW	R-PNS-2AW	R-PNS-2AW	R-PNS-2AW	R-PNS-2AW	R-PNS-2AW	R-PNS-2AW
サイレント	サイレント	R-PNS-2AW	R-PNS-2AW	R-PNS-2AW	R-PNS-2AW	R-PNS-2AW	R-PNS-2AW	R-PNS-2AW	R-PNS-2AW	R-PNS-2AW	R-PNS-2AW	R-PNS-2AW	R-PNS-2AW	R-PNS-2AW	R-PNS-2AW
天井リターン	天井リターン	R-PNS-2AW	R-PNS-2AW	R-PNS-2AW	R-PNS-2AW	R-PNS-2AW	R-PNS-2AW	R-PNS-2AW	R-PNS-2AW	R-PNS-2AW	R-PNS-2AW	R-PNS-2AW	R-PNS-2AW	R-PNS-2AW	R-PNS-2AW

①据付けのまに

- 据付はこの据付け説明書に従って正しく行ってください。
- 次の項目を確認してください。
 - 機種・電源仕様
 - 配管・配線・小動物部品
 - 付属品

付属品収納場所

(箱内)



付属品

本体吊り込み用	冷媒配管	バンド	パイプカバー(大)	パイプカバー(小)	ドレンホース	ホースクランプ
平金(M10)	パイプカバー(大)	パイプカバー(小)	パイプカバー(大)	パイプカバー(小)	ドレンホース	ホースクランプ
8個	1個	4本	1個	1個	1個	1個
ユニット吊り下用	ガス管断熱用	液管断熱用	パイプカバー固定用	ドレンリット断熱用	ドレンリット断熱用	ドレン配管接続用

②室内ユニットの据付場所の選定

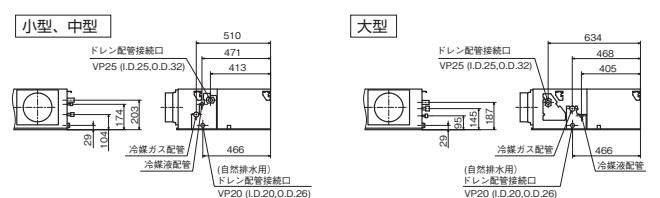
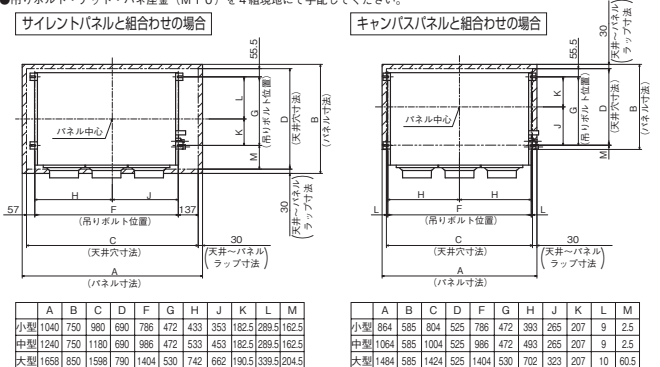
- ①据付場所は、下記条件に合う場所をお客様の承諾を得て選んでください。
 - ・冷風または温風が十分に行きわたる所。据付高さが3mを超えると暖気が天井にこもりやすいため、サーキュレータの併設をご指導ください。
 - ・据付・サービス時の作業スペースが確保できる所。
 - ・ドレン排水が確実にできる。ドレン勾配のとれる所。
 - ・吸込口、吸出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
 - ・侵入外気の影響のない所。
 - ・直射日光の当たらない所。
 - ・周囲の露点温度が28℃以下、相対湿度80%以下の所。
(本ユニットはJIS規格条件下に試験を行い、不具合のないことを確認してありますが、ユニット周囲が上記条件以上の高温・高湿度・高湿度の状態では水漏れや腐食が生じる恐れがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合は、ユニットの全面を必ず配管・ドレン配管に10～20mmの断熱材を付けてください。
 - ・テレビ、ラジオより1m以上離れた所。(映像の乱れや雑音が生じることがあります。)
 - ・ユニット風下に食品・食器やパソコン・サーバー、医療機器等置かれる困るものを置かない所。
 - ・調理器具が発する熱の影響を受けない所。
 - ・ワイヤレスの真ん中など、粉・灰等を直接吸い込まない所。
 - ・蛍光灯、白熱灯よりできるだけ離れた所。(ワイヤレス機種の場合、ワイヤレスリモコンでの正常な操作ができなくなる場合があります。)
- ②据付しようとする場所がユニット重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われるら板、桁等補強して据付作業を行ってください。強度不足の場合は、ユニット落下によるケガの原因になります。

3

③据付け前の準備

本内容を参照に最新設置基準に合わせ設置してください。

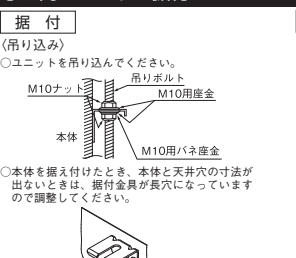
- 吊りボルトの長さが長くなる場合は耐震補強を実施してください。
 - システム天井(グリッド天井・ライン天井)の場合
吊り長さ(吊りボルト長さ)500mm以上又は天井とところ高さ700mm以上の場合に耐震ブレースを設置する。
強度が充分にある天井面に設置する直接スラフから吊り下げる場合
吊り長さ(吊りボルト長さ)1000mm以上の場合は耐震ブレースを設置する。
- 吊りボルト・ナット・バネ座金(M10)を4組現地で手配してください。



④室内ユニットの据付け

据付

(吊り込み)

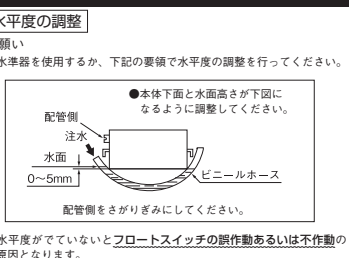


●本体を据付けたとき、本体と天井の寸法が出ないときは、据付金具が長くなっていないので調整してください。

水平度の調整

お願い

○水準器を使用するか、下記の要領で水平度の調整を行ってください。



●本体下面と水面高さが下図のように調整してください。

○水平度がでないときフットスイッチの誤作動あるいは不動作の原因となります。

裏面つづく

⑤ダクト工事

●露出防止・吸音のため、吸音断熱付フレキシブルダクト使用を推奨いたします。(別売品 1m、2m、4mがあります。)

●天井貼付前にダクト工事を実施してください。

②専用吸出口
●専用吸出口は、室内全般に空気が流れるように所定に設置してください。

●ダクト接続は、φ200円形ダクト専用です。

●専用吸出口の取り付けダクトとの接続は天井貼付前に行ってください。

●ダクト固定バンドを断熱し、結露防止を行ってください。

③給・排ダクトの接続

●新鮮空気取入
●後面又は、側面のどちらか工事の容易な方の取入口を使用してください。

●同時給排風を行う場合は、後面新鮮空気取入口を使用してください。(側面は使用不可)

●排気 (必ず給気を使用してください。)

●側面排気口を使用してください。

●別売品の給排気用ダクトフランジ (φ125丸形ダクト接続用) を利用し、φ125丸形ダクトを接続してください (バンド締め)。

●ダクトは結露防止のため、保温してください。

④吸出ダクト
●φ200円形ダクトを接続してください。

●各スポット間のダクト長さは、23m以内としてください。

●ダクトは、最短長さとなるよう施工してください。

●4スポットを3スポット、3スポットを2スポットに改修する場合は、専用替り板を別売品として用意しています。中央いづれを差していくください。

●2スポットから1スポットへの改修は、行わないでください。

⑤お願い
●曲りは極力少なくしてください。(曲れは極力大きくしてください)

●本体・吸出口のダクトフランジとの接続は、バンドを締め固定してください。さらに固定部分に断熱材を貼り結露防止を行ってください。

⑥冷媒配管

冷媒配管時の注意事項

●冷媒配管は、新規配管をご使用ください。フレアナットは、製品付属のもの又は JIS B 8607 2種適合品をご使用ください。既設配管再利用の可否及び洗浄方法については、室外ユニットの説明書又はカタログ・技術資料で確認すること。

1) 再利用する場合、フレアナットは流用せずユニットに付属のもの又は JIS B 8607 2種適合品を使用すること。

配管径 d mm	配管の最小肉厚 mm	フレア加工 挿出し寸法 mm R410A 用 従来ツール	フレア外径 D mm	フレアナット締付トルク N・m
6.35	0.8		8.9 ~ 9.1	14 ~ 18
9.52	0.8		12.8 ~ 13.2	34 ~ 42
12.7	0.8	0 ~ 0.5	16.2 ~ 16.6	49 ~ 61
15.88	1		19.3 ~ 19.7	68 ~ 82
19.05	1.2		23.6 ~ 24.0	100 ~ 120

2) 再利用する場合、部分的に交換した新しい配管に、R32用またはR410A用のフレア加工をしてください。

●冷媒配管は、リット脱酸銅全線目無銅管 (C1220T、JIS H 3300) をご使用ください。また管の内外面は美麗であり、使用上有毒な硫黄、酸化物、ゴミ、吹粉等 (コタミ) の付着がないことを確認してください。冷媒配管の内部にコタミの付着があると冷媒機劣化などの原因になります。

●R32またはR410A以外の冷媒は使用しないでください。室外ユニット表示以外の冷媒を使用すると、冷媒機劣化などの原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破損などの原因になります。

●据付けに使用する配管は室内に保管し、両端ともう付けする直前までシールしてください。冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。

●工具はR32用またはR410A用ツールを使用してください。

⑥冷媒配管のつづき

作業手順

1. 室内ユニットのフレアナット及びキャップを取外す。
※ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けして外してください。
(このときガスが出ることがありますが、異常ではありません。)

●フレアナット飛びに注意してください。(内部に圧力がかかっている場合があります。)

2. 液管・ガス管をフレア加工し、冷媒配管を接続する。
●配管の曲れは4D以上の大きな半径で行い、曲れおしを行わないでください。
また配管をねじり、2/3D以下につぶしたりしないでください。
※フレア接続は、以下のように行ってください。
●フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初1回で3~4回転おし込み、2丁スパナ掛けで表の締付力で締めてください。

3. 室内ユニットのフレア部はガス漏れチェック後、右図に示すように断熱材をかぶせ、バンドでしっかりと締め付けてください。
●ガス側配管、液側配管とも断熱は完全にしてください。
●断熱材は断熱しない結露し水漏れします。
●ガス側配管の断熱材は耐熱120℃以上のものを使用してください。
●高湿度空間で使用の場合は設置環境に合わせて、冷媒配管の断熱を強化してください。強化しない場合は断熱材表面に結露することがあります。

4. 冷媒は室外ユニットに充填を追加。
室内および接続配管の冷媒追加については室外ユニットに付属の説明書をご覧ください。

＜断熱材厚さ10mmを使用する場合＞

＜断熱材を強化する場合＞

注意
同一締付けトルクでも、ユニオンのねじ部に冷媒機油を塗布した場合は、ねじ部潤滑摩擦力が下がることにより、軸方向分力が増加してフレアの応力集中部の応力とすることがあるため、ユニオンねじ部、又はフレア外面への冷媒機油塗布は推奨しない。
冷媒機油を塗布する場合は、フレア内面へのみとすること。

⑦ドレン配管

ドレン配管時の注意事項

●ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。不確実な場合、室内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。

●ドレン配管は、排水配管として、有害ガス及び可燃性ガスが発生する排水管には、入れないでください。室内に有害ガス及び可燃性ガスが流入し、中絶や燃焼火災になることがあります。また熱交換機の腐食、異臭の原因になります。

●接続部から水漏れのないように確実に施工してください。

●水漏れが起らないように、断熱工事を確実に行ってください。

●施工後、ドレンが排水されていることを、ユニットドレン口及びドレン配管最終出口部で確認してください。

●ドレン配管は下り勾配 (1/100以上) とし、途中山越えやトラップを作らないでください。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けないでください。
試験時にドレン排水が確実に行われていることを確認してください。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保してください。

ドレンアップする場合

●ドレン配管の出口高さは、天井より850mmまで高くすることができ、天井内に降着物などが発生、エロゾルなどを取り除くために、この場合、ドレン配管を立ち上げるまでの距離が長いと、運転停止時におけるドレン流量が多く、オーバーフローすることがありますので、右図法で処理します。

作業手順

1. 付属のドレンホース (軟質塩ビ管) はソケット段差部まで確実に挿入してください。ホース先端部から10mm程度余裕に取付け、ねじの締め代が5mm以下となるまで締込んでください。

●接続剤使用不可

ドレンソケット
ドレンホース
ねじの締め代が5mm以下となるまで締込んでください
ホースクランプ
ドレンホース
接続剤使用不可

2. ドレンホース (硬質塩ビ管) に、VP-25用継手 (現地手配) を接続・接続し、この継手に、VP-25 (現地手配) を接続・接続してください。
●ドレン管は、市販の硬質塩ビパイプ一般管VP-25を使用してください。
●接続剤は付属のドレンホース内部に流れ込まないようにしてください。
乾燥後、フレキ部に力がかかった場合、フレキ部が破損することがあります。
●ドレンホースは、ユニットの排水口にあるドレン配管の据付時の微小なズレを吸収するものです。故意に曲げたり、引っ張って使用した場合は、破損し、水漏れにすることがあります。

⑦ドレン配管のつづき

3. ドレン配管は下り勾配 (1/100以上) とし、途中山越えやトラップを作らないように施工してください。●ドレン配管を接続する場合にユニット側の配管に力加えないように注意を行い、できる限りユニット近傍で配管を固定してください。

●エア抜きは絶対に設けないでください。

●複数のドレン配管の場合、本体ドレン出口より約100mm下で集合配管がくるようにしてください。また集合配管はVP-30以上を使用してください。

4. ドレン配管の断熱施工を行ってください。
●断熱材は、排水テスト実施後、付属のパイプカバー (小) をドレンソケット部に装着した後、付属のパイプカバー (大) にてパイプカバー (小)、クラップおよびドレンホースの一部を覆い、テープにより隙間のないように巻いてください。

ドレン排水テスト

●ドレン排水工の完了後に、排水が確実に行われていること、接続部およびユニットのドレンパ・部からの水漏れのないことを確認してください。

●暖房期の暖気付けの際にも必ず実施してください。

●新築の場合には天井を張る前に実施してください。

下部ドレン配管工事要領 (配管接続)

ドレン配管に下り勾配 (1/50~1/100) が可能な場合下図要領にて下部ドレン配管接続が可能です。

上部ドレン配管接続口
下部ドレン配管接続口 (外径20mm)
ゴム栓 (取り外す)
断熱材 (取り外す)

下部ドレン配管を使用する場合は必ず必要です
(ドレンポンプ用のコネクタの取り外し)
コントロールボックス内のドレンモニター用コネクタ CNRを取り外してください。
(注) コネクタを接続したままで使用すると、上部ドレン配管接続口よりドレン水が排出され水漏れとなります。

⑧電気配線取出し位置および電気配線接続

●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」及び電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。

●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。

●電源配線と通信配線は同一経路を通さないようにしてください。誤動作や故障の原因になることがあります。

●D種接地工事を必ず行ってください。

●電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。

1. 電装機の蓋 (ねじ2本) を取外してください。

2. 各配線をユニット内に入れ、端子台に確実に接続してください。
コントロールボックスの蓋に貼付の結線板を参照ください。

3. 各配線をクラップで固定してください。

4. 取外した部品を元通りに取付けてください。

●天井裏空間の吸込防止に接続カバーを取り付けてください。

シングル機の配線接続

通信側端子台
電源側端子台
リモコン線
スーパリング線
アース線
室内電源線

マルチ機の配線接続

通信側端子台
電源側端子台
リモコン線
スーパリング線
アース線
室内電源線

*配線を引張っても動かないようにバンドで固定してください。

⑨パネルの取付のつづき

サイレントパネルの場合

＜付属品＞

① 丸小ねじ (M5×35) 4個
② パネル取付用
③ センターパネル
④ パネル外枠
⑤ バッセル外枠
⑥ バッセル外枠
⑦ バッセル外枠
⑧ バッセル外枠
⑨ バッセル外枠
⑩ バッセル外枠
⑪ バッセル外枠
⑫ バッセル外枠
⑬ バッセル外枠
⑭ バッセル外枠
⑮ バッセル外枠
⑯ バッセル外枠
⑰ バッセル外枠
⑱ バッセル外枠
⑲ バッセル外枠
⑳ バッセル外枠
㉑ バッセル外枠
㉒ バッセル外枠
㉓ バッセル外枠
㉔ バッセル外枠
㉕ バッセル外枠
㉖ バッセル外枠
㉗ バッセル外枠
㉘ バッセル外枠
㉙ バッセル外枠
㉚ バッセル外枠
㉛ バッセル外枠
㉜ バッセル外枠
㉝ バッセル外枠
㉞ バッセル外枠
㉟ バッセル外枠
㊱ バッセル外枠
㊲ バッセル外枠
㊳ バッセル外枠
㊴ バッセル外枠
㊵ バッセル外枠
㊶ バッセル外枠
㊷ バッセル外枠
㊸ バッセル外枠
㊹ バッセル外枠
㊺ バッセル外枠
㊻ バッセル外枠
㊼ バッセル外枠
㊽ バッセル外枠
㊾ バッセル外枠
㊿ バッセル外枠

① パネル内枠を外してください。

＜センターパネルの外し方＞

② フィルタをパネルから外してください。

③ パネル外枠を本体に取付けてください。

④ パネル取付けねじ (パネル付属品) 4本のうち2本を円の周りに仮止めてください。

⑤ パネル外枠を仮止めたねじに引っかけ、図の矢印の方向へスライドさせ仮止めてください。
(注: パネル外枠の裏面には方向性があります。)

⑥ 仮止めたねじ及び残りのねじ (2本) を締付けてください。

⑦ センターパネルを①項で外す要領で取付けてください。

キャンバスパネルの場合

注) キャンバスパネルの取付けには、キャンバスダクト (別売品) が必要です。

＜付属品＞

① 丸小ねじ (M4×16) 4個
② 丸小ねじ (M5×16) 8個
③ 丸小ねじ (M5×25) 4個
④ ホルダー 4個
⑤ チェーン 4個

① キャンバスダクト (別売品) を本体に取付けてください。(4ヶ所)

② センターパネルを上図に示す、サイレントパネルの場合と同じ要領で取外してください。

③ パネル外枠にチェーンを取付けてください。(4ヶ所)

④ パネル外枠を取付けてください。

⑤ ホルダを①項で外す要領で取付けてください。

⑥ パネル外枠のチェーンをホルダに引っかけてください。

注) チェーンを引っかける際は、パネル外枠を天井材に密着させてからチェーンを引っかけるようにしてください。

⑦ センターパネルを上図に示すサイレントパネルの場合と同じ要領で取付けてください。

フィルタの取付け方法

○ パネルに貼付けのラベルを参照に取外し、取付の順番を確認してください。

○ フィルタを取外し、取付は、ねじを締め固定金具をスライドして行ってください。

⑨ 機外静圧設定

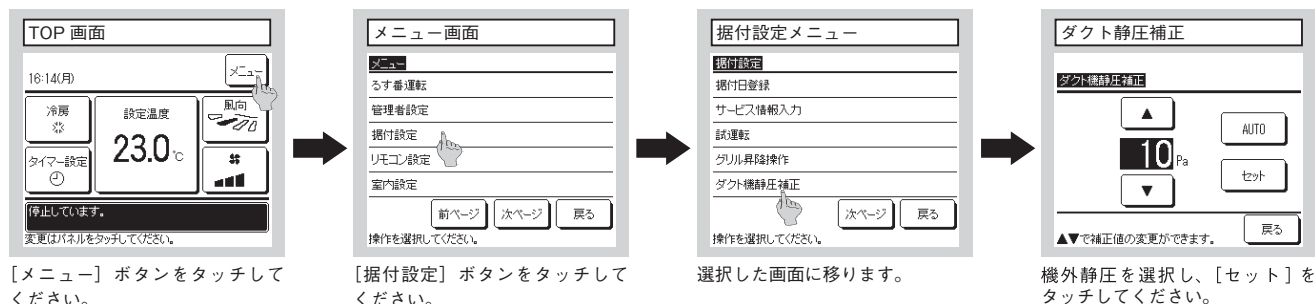
ECOタッチリモコン（RC-DX2 以降）を使用し、機外静圧を設定することができます。
定格風量になるように各タップのファン回転数を変化させます。
店舗シリーズをツイン機として設定する場合は、室内ユニット同士が同一風量になるように個々に設定してください。

● ECOタッチリモコンからの設定方法

- ①メニュー画面より据付設定を選択し、サービスパスワードを入力します。
- ②据付設定メニューより、ダクト機静圧補正を選択します。
- ③“▲”、“▼”で機外静圧を設定し、“セット”をタッチしてください。
（“AUTO”を選択した場合には、100Pa で設定されます。）

詳細な設定方法については、ECOタッチリモコン付属の据付説明書を参照ください。

風量特性については、技術資料を参照ください。



注意

- ・RC-DX2 以降の ECOタッチリモコン以外からは設定できません。

静圧設定上の注意

実際の機外静圧を計算し、設定してください。

実際の機外静圧よりも機外静圧設定が高い場合には風量が過大となり、水漏れが発生する恐れがあります。また、実際の機外静圧よりも機外静圧設定が低い場合には風量が過小となり、不冷・不暖の原因になります。

リモコン設定時の有効機外静圧（Pa）／部の設定は使用範囲外になります。

リモコン設定		10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
標準パネル		10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
天井リターン	小型	15	25	35	45	55	65	75	85	95	/
	中型・大型	20	30	40	50	60	70	80	90	100	/
1 スポット塞ぎ※	中型	/	/	10	20	30	40	50	60	70	80
	大型	/	10	20	30	40	50	60	70	80	90

※中型(3スポット)を2スポット、大型(4スポット)を3スポットに改修する場合は、専用塞ぎ板(HA06916)を用意しています。両端のスポットはふさがなくてください。また小型(2スポット、1スポット)に塞ぎ板を使用しないでください。

⑩ ユニット据付工事完了後のチェック項目

- ユニット・パネル据付工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。

チェック項目	不良だと…	チェック欄
室内外ユニットの取付けはしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレン排水はスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
配線の太さは仕様通りですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	
機外静圧設定は完了していますか。	水漏れ、冷えない	